



せせらぎ Message 14

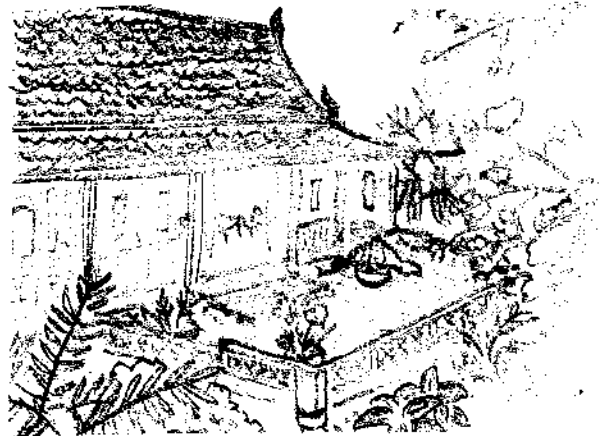
「こだいら 水と緑の会」3/24/2009 発行

「10年後のこだいら」構想と緑化

代表 馬場 政孝

最近、街づくりにおいてユニバーサルデザインが流行りである。この概念が、どの人にとっても快適な人に優しい街づくりを意味するとすれば、バリアフリーの道路や建物作りと並んで、緑豊かな空間、歴史的遺産を生かした生活環境づくりは欠かすことが出来ないであろう。また、車は便利な生活用具であると同時に騒音と排気ガスを撒き散らし、安寧な生活を脅かす暴力的機械装置であるから、これを出来るだけ排除する街づくりの設計が好ましい。ドイツの都市では都心部へのアプローチにはSバーン（郊外電車）やUバーン（地下鉄）を使用し、車の都心部への乗り入れを規制している（フライブルクやミュンヘンなど）。ハイスピードで車が走り抜ける幹線道路が何本も貫通するような車に優しい街は、人にとっては住みにくい殺伐したものになる。曲がりくねった狭い道路は車には不便だが、人には優しいものとなる。これがポストモダンの発想である。

小平には雑木林、畑、屋敷林、玉川上水などがあり、緑が比較的多いといわれる。しかし、これらのうち玉川上水を除けば10年後にどれだけのものが残っていよう。私有地である限りそれらのほとんどは確実にマンションや一戸建て住宅、商店などに姿を変えるに違いない。10年後の



小平の緑の状況を考えるとき、もっとも大切なのは公有地を増やしてそれを雑木林に変えること、学校の緑化、および自然樹形の美しい街路樹のある景観づくりを計画的に推進することである。街路樹にとって張り巡らされた電線と電柱は障碍となる。電柱はユニバーサルデザインの観点からもこれからの時代にふさわしいものではない。道路や橋ばかり作る日本の公共事業は世界の笑いものになっている。生活の質を高め、快適な生活環境づくりのためにこそ、これ

らの公共事業は実施されるべきである。

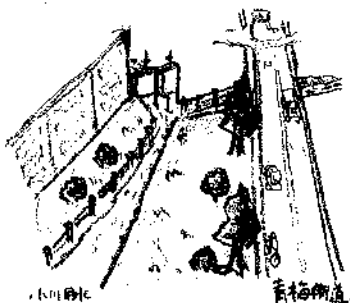
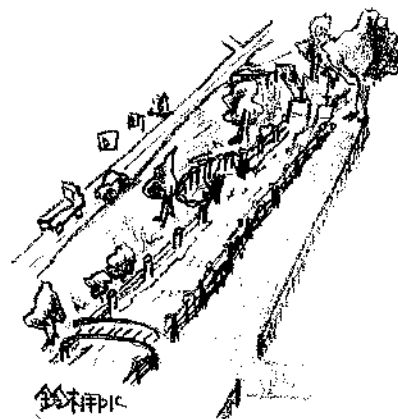
東京都は2006年にオリンピック招致に向けて『10年後の東京』構想を発表し、美しい都市景観と誰もが気持ちよく暮らせる生活環境の創出を謳っている。緑化に関する具体的な方策として、1、街路樹の倍増計画（100万本へ）2、（街路樹と関係して）電柱の地中化、3、学校のグラウンドの芝生化、などを挙げている。また、都市公園100ヘクタールを新規開園するとしている。電柱の地中化については、昨年（2008年）東京都建設局が『東京都無電柱化方針』を策定し、今後10年以内に都道の優先無電柱化区間としてのセンターコアエリア（荒川と山の手通りに挟まれた区域）とオリンピック関連施設周辺、人通りの多い駅前周辺で無電柱化を完了する、としている。都道沿いでは2006年の時点で全体の25%が無電柱化されているが、多摩地区では1040kmのうち8%に過ぎない。

『10年後のこいだいら』の緑の在りようを考えると、電柱の地中化の推進は街路樹の充実のために必須の公共事業となる。それは良好な都市景観の創出にも繋がるものである。

用水路の現状

○ 回田町水門周辺の整備

平成20年度の事業として着手された整備工事がこの3月末には完了します。側壁の鉄板の排除は大仕事で、鉄パイプは沼中に1.5mも埋まっていたのをシャベルで掘っていました。ささやかなワンドも造られており、完成後は人々が楽しめる水辺となりそうです。

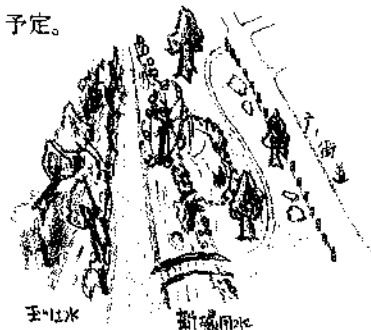


○ 上水公園内

ここも平成21年度に整備が予定されています。新堀用水から揚水車で水を汲み上げ、池を造る計画です。玉川上水沿道は散歩の人も多く、また幾多の学校の通学路でもあります。用水路に関心を持ってもらう目玉となりそうです。

○ 小川一番水門～小川緑地

平成21年度に整備工事が予定されています。青梅街道側のフェンスを撤去すると、水路から2m弱の緑地となります。整備次第で良質の水辺景観が出来るでしょう。保育園・公民館のコンクリート塀は無理ですが、コカ・コーラの塀については生垣にしてくれるよう市が提言する予定。



2008年3月に小平に引っ越してきました。当初、住まいの直ぐ近くに狭山・境緑道があることは知らず、丁度まだ桜が散り始めた時で、桜並木よりも花の薄いピンクを引き立てている緑の豊かさに感動したのです。長い間都内住まいでしたので桜並木はあちこちで見える機会は多く春の風物くらいにしか捉えていませんでした。それが花小金井まで続くツツジ・紫陽花・柘植・大木の桜、そして時々見せる小さな流れ。どれもが驚きで、こんなに近くにこんなに素晴らしい所があると本当に嬉しかったのです。

落ち着くと散歩です。何回か往復をするうちに沿道のツツジや柘植の間から笹の葉が飛び出しているのが気になり、自前の花鋏で一本一本切り、束ねてゴミ袋に入れ持ち帰ることをしました。さらに笹に他の木が負けて枯れ始めているのを知り、役所に行ってボランティアとして登録し、道具を借り袋をもらって暇を見ては続けていました。そのうち、「あじさい公園」で草取りをしている女性を見かけたり、老夫婦が缶やゴミを拾っておられる姿に出会ったりしましたが、こんなに大勢の人々がジョッキングや散歩で行き来しているのに、この素晴らしい道を大事にしている人が余りに少ないのが不審に思えてきました。



12月の半ばに小平周辺懇談会の誘いが市役所から届き、何か解るのではと思いき出かけました。緑道が都の所有であることを知り、またその管理育成については新たな疑問も出てきましたが、そこで富永氏から「こだいら 水と緑の会」のことを教わり入会させて頂きました。いつも通る大沼田用水の表示板が会の作成であることも知りました。用水の泥を取り除いたり、野生の草花の種を撒いたりという地味な活動です。数知れないほどの大勢の人々がサイクリング・ジョッキング・ウォーキングと行き来しながらも、でもどれだけの人がこの水と緑の恵みの保全の為の活動を知っているのでしょうか？

今、緑道は常緑樹は少なく裸木が続いていますが、それはそれで広々とした暖かなたたずまいを見せて美しいのです。足下には小さな花も咲き始めています。ただこれから、この時期以上の人数が行き来するこの緑道を踏み傷めるこ



となく、一人ひとりの財産として護り育てる意識を草木とともに育てることが出来ないか、何か手立てはないかとその事にどうしても行き当たってしまいます。この小平市の上水・用水に囲まれた緑豊かな自然を皆が誇りと感謝の思いで護ってゆくには……。

私はまだ何も知らない新参者です。これからこの町の美しさをもっと知り、自分に出来ることを続け、人に呼びかけていきたいと思っています。

会員情報

新規会員 松村 佳代子さん

これまで都心暮らしをされ、
昨春小平に越して来られました。
自然や花の好きな優しい女性です。
コーラスが趣味。住まいは美園町。

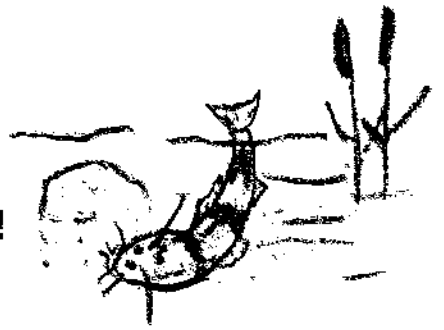
佐藤 忠彦氏

「小平 環境の会」の会員でもあり、
定年後自然と接することをやりたい
とのこと。東北出身で趣味は山登り。
住まいは小川東町。

活動スケジュール

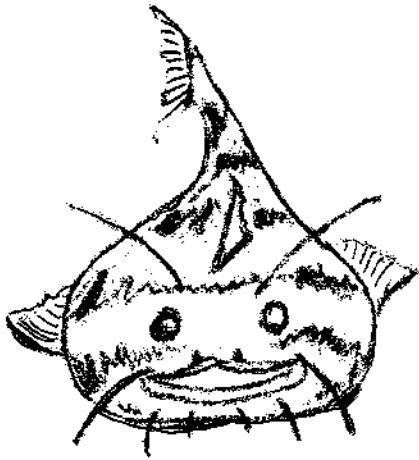
- 4月 1日 用水ボランティア 10:00am グリーンロード親水公園集合
表示板の補修（防水用ニス塗り）・敷地内の野草調査（内野氏予定）
- 15日 グリーンロード親水公園整備 10:00am~
当日、小平市公園課に発注しておいた水草の苗が届きます。市の職員も手伝ってくださる予定。親水公園の植栽終了後、小川緑地にて作業。
- 22日 4月定例会 19:00~ 中央公民館 学習室3
- ☆ 親水公園内に野草ゾーンを作る計画があります。昨年予定場所に数種類の種を撒いたのですが発芽せず、今年再び野草の種を購入しますが、まず会員各位でプランターで発芽させ、その後移植させることになりました。希望者は連絡してください。
- ☆☆ 小平青年会議所の方からイベントへの参加連携の依頼がありました。狭山・境緑道での行事とのことですが、日時は追って連絡。
- ☆☆☆ 5/10日のグリーンフェスティバルに向けて用水路の魚の捕獲をします。4月中に実施予定。ギバチは千葉の試験所から購入。
- 5月 10日 グリーンフェスティバル 10:00~15:00 中央公園グラウンド
「用水路クイズ」がスタンプラリーの対象となっています。会員の応援を期待。

併設：「ギバチの会」誕生！！！！



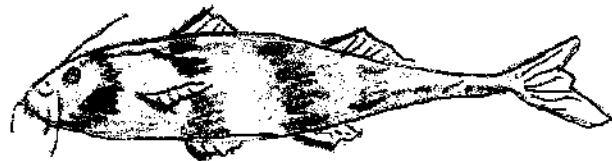
始めまして、僕ギバチです。

「ナマズの子供か？」って、違いますよ。親戚ですけどね。あっちは体長 60 cm、黒装束で平べったい。ヒゲは長くて立派なのが 4 本あるけど目は小さくて口がでかく、ヌルヌルしていて俗説には地震なんか起こすというし……。僕は体長 25 cm 位で茶褐色。ヒゲは 8 本生えててなかなかのイケメンですよ。ただ背びれと胸びれの 3 箇所有毒のある棘があるので素手で捕まえると痛いかもしれません。



僕達は日本の固有種なんだ。流れがあつて水質の良い川が好き。綺麗な水といつてもホトケドジョウほど深森でもないけどね。昼間は石や岩の下、石垣の隙間、ヨシの間や樹木の下などに潜んでいて、夜活動するんだ。ユスリカの幼虫のような水生昆虫や小魚、まれには植物を食べたりする。名前の由来は『ギーギー』と鳴く「蜂」（刺されると痛いから）からギバチとつけられたと言われているけど、俗説だと言う人もいるよ。

僕達昔は沢山小平の用水路にいたんだよ。水が汚れて棲めなくなったけど、元々用水を流れているのは多摩川本流の綺麗な水。また、小平の用水路に棲みたいと思っているの。皆も手伝ってね。



ギバチは昔小平の用水路で当たり前のように見られていた魚です。おじいちゃん、おばあちゃんに聞けば覚えていらっしやると思います。「沼浚いの時かいぼりに追い込んで掬って捕まえテンブラにして食べたよ。」と話して下さった古老がいました。しかし、ギバチは水質汚濁や河川改修による環境変化に弱く、ここ小平でも用水に排水が流入した頃から姿を消してしまいました。平成 13 年から用水路の所有権が国から小平市へと移譲され、少しずつ整備工事もなされるようになりました。元々用水路を流れている水は、多摩川本流の綺麗な水です。何しろ東京都民の飲み水ですから。現在でも流れの中にはドジョウ・ハヤ・ザリガニ・カワニナ等の生息が確認されています。ギバチ自身は現在絶滅危惧Ⅱ類、東京都でも環境指標種として扱われています。日本の固有の魚なのに全国的に数が減少しているのが現状ですが、多摩川本流では生息が確認されています。

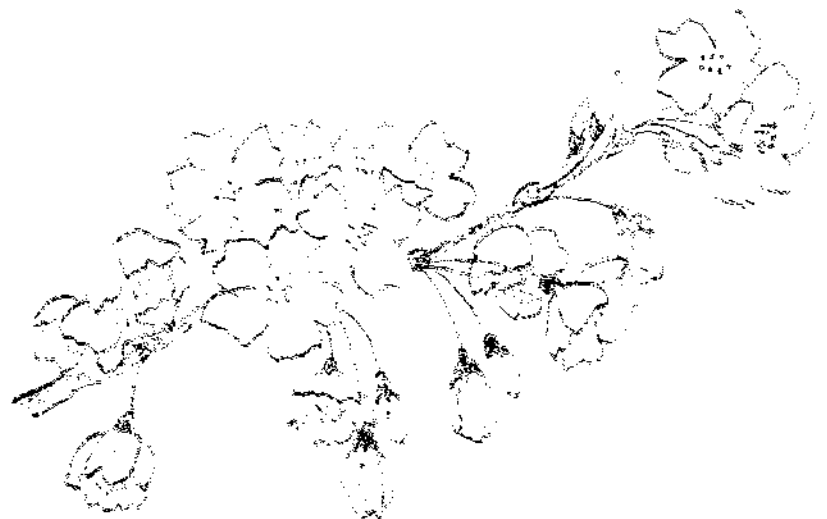
同じ水です。小平の用水にギバチが棲むことは可能です。皆で協力してギバチを復活させようと「ギバチの会」を併設しました。是非ご参加ください！！

オープンして一年目の昨春の親水公園。「今はこういう摘み採れる所が無いのよね。」と懐かしそうに早朝ヨモギを野草予定ゾーンで年配の女性が摘んでいた。

1773年、武蔵村山からの引寺建立の延命寺の隣に出来た、野草などにも優しい公園を目指す親水公園。流れのある小さな用水路公園だ。夏、子供たちが「バッターがいたよ。」「あ、ザリガニがいた。」と目を生き生きとさせる。「ウナギが流れて行ったよ。」は年配の小父さん。『蒲焼になるところを逃げて来たのかな?』秋、早朝隣接の「旭の森公園」の大きなイチョウから銀杏が公園にも落ちているので、嬉しそうに採っているお爺ちゃん。ドングリを拾う子供達。「カモがいた。2羽いるよ。」とビックリする女性。気候の良い時には東屋で談笑する人達、競馬新聞を広げる人、流れを見つめる人。散策路にたたずんで表示板をジックリ眺める人、流れに手や足をつける子供達、保育園の先生に連れられてきてはしゃぐ園児達、様々な人の姿が見られる。またここは、メジロ・セキレイ・ジョウビタキといった鳥、ススキ・ジュズダマ・ヒルガオといった野草、ハナバチ・ザリガニ・ドジョウ・カマキリ・バッター・スイッチョ・キリギリスといった生き物が見られる貴重な小平のオアシスの一つです。

筆者はここで公園の整備をしています。元気のあるのは良いのだけれど、少し元気すぎて用水路に落ちないようにと設けられている柵や扉を壊したり、掃除道具を真っ二つとか、植栽された笹を引っこ抜くのは困ったもの。他の公園でもベンチを引っこ抜いて逆さまにしたり、大時計のガラスを壊したりとか耳にする。もっとも我々大人も子供の時大なり小なり悪戯して大きくなったので偉いことはいえないか?でも憩いの場があることは市民にとって利益になることは確かだろう。

これに対して都心の公園は現実社会を映す鏡で、年初筆者の連れ合いが日比谷公園の炊き出しボランティアに行ってきたが、厳しい生活を公園で過ごすのは痛ましい。筆者は数年前都心の公園の整備



に携わったが、夜中本集めで働いて昼公園で仮眠する人、寒さしのぎでカップ酒を飲む人、暖をとるため近くから材木の切れ端や枯れ枝を集めて焚き火をする人等の姿を目にした。厳しいホームレス生活を余儀なくされる人の住家にもなる公園。この方達と馴染みになると、筆者が汚い服装で仕事をしているので「このズボンをおげようか。」と真新しいズボンを見せる人や、「お孫さんにおげよう。」と玩具を呉れようとした女性もいらした。この方は風の便りにまもなく亡くなったとか聞いた。人生を考えさせられる勉強の場にはなるけれど、都心の公園も本来の役目である憩いの場に、そして今も彼等が居れば暖かい所に移って暮らしてもらいたい。

小平の貴重な水と緑を保全育成していく一つとして親水公園では水草ゾーンと共に野草回復でホタルブクロ・ミズヒキ・ホトトギス・カラスウリ・オトギリソウ・ノカンゾウ・オカトラノオ・カタクリ・オミナエシなどが見られるようになったら良いのにと、会員一同力仕事も含め相談しながらワイワイやっています。関心ある方は一緒にやりませんか？

落ち葉を集めた袋を「これ頂戴」と貰っていく人、黄色に染まったイチヨウの葉、赤くなった紅葉、しだれ桜、泥のついた小さな雪ダルマ。武蔵野の小さな風や匂いが感じられる場所。もっと大きく皆のオアシスとして作ってきたい。



沼漉い考 馬場 淑子



小平の用水は今から 350 年ほど前に玉川上水から引かれました。その水は開拓民の飲み水や生活用水に使われていました。だから、人々はとても用水の水を大事にしてきたのです。年に一度（昔は二回だった）共同で実施される沼漉いもその一つです。現在は毎年五月の第三日曜日に、用水周辺の自治会の人々が担当区域の用水に沈殿している沼を漉きます。私も何回か沼漉いをやったことがあります。濡れた泥は大変に重く、次の日腰が痛みました。この辺りは関東ロームで、用水路の底はその赤土です。

例えば沼漉いをしないとどうなるか？泥が溜まって水路の流れの障壁となります。小平にも農家は存在しますし、彼等は沼漉いの必要性を強調しますが、単に水路を確保するためにも沼漉いは必要なのです。また、沼漉いという昔から連続と行われてきた風習は、地元の方々にとって大事な水を護る仕事であり、共同で実施することで連帯を生む行為であります。作業終



了後の酒盛りも楽しいひと時です。皆で一つことを為すというのはいいことです。

しかし、どうしてもそこで引っかかってしまうのが、一週間にも亘って水を止めてしまうと、用水の中の生き物が死んでしまうことです。昔はそこかしこに『かいぼり』と呼ばれた溜まり場があり、生き物はその中に追い込んでいたようです。現在も新たに整備する箇所についてはワンドを建設するなどして工夫していますが、とても間に合いません。上流部の整備工事のためグリーンロード親水公園でも長期に止水しましたが、一週間目に僅かな水の中に首を突っ込んでいたドジョウを発見。その後ザリガニの死骸に心を痛めました。つい先日湿りの残っている土中に小さなザリガニを見つけた時は感激しました。

昭島に用水路の『水神祭り』を見学に行ったことがあります。用水路の幅も深さも小平のと同じくらいでしたが、昭島では水を止めずに沼浚いをしています。沼浚いは必要で、これからも残したいいい風習ですが、生き物との関連をどう解決するか、目下よい方策を模索中です。



5月10日 グリーンフェスティバル

6月 6日 奥多摩植樹事業参加

7日 全国一斉身近な水質検査

新年度です。会費納入願います！



問い合わせ・連絡先 馬場 042-345-6772

<http://www009.upp.so-net.ne.jp/water-green/>

編集後記



拙宅の小さな庭の生垣に餌箱を置いて一月ほど経ちます。観察していると鳥にも力関係があると見え、一番顔役なのが椋鳥。次がヒヨドリ。雀は集団行動を取りませんが、大きい鳥が姿を見た時は生垣の隙間から様子見。その雀の隙について餌のパン屑をかつさらって行くのがメジロ。春を代表する鳥ですが、雀より一回り小柄です。

拙宅は玉川上水にも近いので、小サギ・ゴイサギ・ジョウビタキ・アオジ・カワラヒワ・アトリ・セキレイ・ツグミなどの姿を楽しむことができます。生活の中で自然に触れられる幸せを想います。あ、雀が催促してる・・・